

(指導の手引き)



目次

教材1：「自分らしさ」ってなんだろう？	2
教材2：学校でこんなことないかな？	4
教材3：テレビや広告をよくみると…	6
教材4：家の中の仕事ってだれがする？	8
教材5：自分らしく働いている人たちを紹介します	12
教材6：鳥取県が目指しているもの	13

本教材のねらい

鳥取県では、平成12年に「鳥取県男女共同参画推進条例」を制定した後、平成13年、19年、24年、28年、令和3年と累次にわたり「鳥取県男女共同参画計画」（令和3年度からは、性の多様性を前提とした名称「鳥取県性にかかわらず誰もが共同参画できる社会づくり計画」）を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取組を総合的に進めてきました。

このような取組により、子育て支援施設の充実など、働きながら子育てしやすい基盤の整備が進み、審議会等委員や管理職に占める女性割合が全国上位となるなど、様々な場面で活躍する女性の姿が見られるようになっていきます。

一方で、社会には固定的な性別役割分担意識は根強く残っており、自治会やPTAといった地域活動の場における意思決定過程への女性の参画は男性に比べて少なく、家事、育児、介護などの家庭における責任は依然として女性に偏っています。こうした意識や環境は、性別に関わらず多様な選択肢の中から自分の希望する職業を選ぶという、子どもたちの将来の職業選択に影響を与えることも懸念されます。

人々の意識は、男女共同参画の推進に関する全ての取組の根幹となるものであり、固定的な性別役割分担意識や無意識のうちに生じている性別による思い込みは、男女共同参画社会の実現に向けての大きな障壁となります。

鳥取県が目指す男女共同参画社会の実現に向けて取り組むにあたり、特に、考え方が柔軟な子どもの頃に、このような固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みに気付くことが重要であることから、小学校における学習教材及び指導の手引きを作成しました。これをもとにして、児童の発達段階や実態、設定する教科・領域等の特質を踏まえた学習展開を工夫するなどして活用いただきたいと思います。

また、子どもたちが性別に関わりなくお互いを尊重する気持ちを育むためには、保護者の男女共同参画への理解も重要だと考えますので、当教材を持ち帰り、家庭において家族の方々と一緒に考えるきっかけとなるよう促していただきたいと思います。

教材1：「自分らしさ」ってなんだろう？



教材 P1 (表紙)

【テーマ】

自分らしさを大切に

【ねらい】

- ・ 自分自身を見つめ、自分のよさを発見することで、自尊感情を高める。
- ・ 性別にとらわれず、将来の夢に向かって自分らしさを大切に生きていこうとする意欲を育む。

【指導のポイント】

- ・ 好きなものや価値観が周囲の人と違って良い、違っていても不安になる必要はないということに気づかせる。
- ・ 性別によって「〇〇ができて当たり前」「〇〇をすべき」という性別役割分担意識は、各々の生き方を狭めていることに気付かせる。
- ・ 一人一人が自分らしく多様な生き方ができるように、自分の長所を見つけ伸ばしていくことの大切さを認識させる。

【参考】 (進め方の例)

※授業展開における中核的な部分に絞って記載していますので、授業の導入場面等については、ねらいを踏まえた上で、児童の発達段階や実態に応じて工夫してください。

学習活動	指導上の留意点
<p>書いてみよう (好きな〇〇、得意なこと、苦手なこと・・・)</p>	
<p>○自分の好きなものを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いついたものを素直に書くことができるよう促す。 ・ 1つだけでなく、あるだけ書くようにする。
<p>考えてみよう (将来の夢 (どんな仕事に就きたい? 仕事以外の時間は何をしたい?))</p>	
<p>○今の自分を見つめ、将来の夢や頑張りたいことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢が決まっていない場合は、頑張りたいことについて書くようにする。 ・ 仕事以外の時間についても、大人になった時にどんなライフスタイルを送りたいか書くようにする。 (例) 好きな〇〇を続けたい、〇〇を試みたい、など

(参考) ～一人一人の性が多様な性のうちの一つであることを前提に～

民間の調査等によると、日本における性的マイノリティの人数は、平均にすると全人口の5～8%程度という結果が出ており、少なくとも20人に1人という割合になります。これは、血液型がA B型の方や左利きの方の割合に近い数字で、とても身近な存在なのですが、当事者の方々は無理解や差別を恐れて、家族や友人、知人にも伝えることができず、周りもその存在に気づいていないことが多くあります。

児童生徒の中に性的マイノリティが含まれているという前提に常に立ちましよう。

■性のあり方

性のあり方には、身体の性以外にも様々な要素があり、大きく分けて4つの要素から成り立っています。その組み合わせによって様々なセクシュアリティ（性のあり方）が形作られています。

一人一人の顔や性格が違うように、性のあり方は多様です。

1 身体の性別 性器など生物学的な性別	2 性自認 自分が認識している性別
3 性的指向 恋愛感情などがどの性別に向いているか	4 表現する性別 言葉や振舞い、服装などで表される性別

■SOGIとLGBT

SOGI（ソジ）とは、性を構成する要素のうち「性的指向」と「性自認」を指す言葉で、全ての人の性に関わるものです。

これに対し、LGBTとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーという、アイデンティティ（自分が何者であるかと意識しているか）を指す言葉の頭文字をとったもので、性的マイノリティの総称の一つとして使われます。

SOGI	【性的指向】 Sexual Orientation	【性自認】 Gender Identity
	異性愛、同性愛、両性愛、無性愛 など	女性、男性、Xジェンダー など

LGBT	SO【性的指向】のマイノリティ		GI【性自認】のマイノリティ	
	異性愛ではない人 (※1)		性別不合、性別違和のある人 (※2)	
	Lesbian (レズビアン) 女性同性愛者	Gay (ゲイ) 男性同性愛者	Bisexual (バイセクシュアル) 両性愛者	Transgender (トランスジェンダー) (※3)

※1 ほかに、異性愛でない人には、パンセクシュアル、アセクシュアルの人もあります。

※2 出生時の身体に基づいて振り分けられた性別と異なる性自認の人。日本では、医学的な診断基準に基づく「性同一性障害」という言葉が一般的ですが、国際的には、「性別不合」「性別違和」という言葉に移行しつつあります。

※3 トランスジェンダーは、様々な性別不合、性別違和のあり方の人を含める語です。また、「性同一性障害」という言葉の、病気としての意味を避けるため、トランスジェンダーという語を積極的に使う人もいれば、性同一性障害という言葉で自称して使う人もいます。それぞれの自称を尊重することが大切です。

(鳥取県「多様な性を理解し行動するための職員ハンドブック」をもとに作成)

【参考資料】○鳥取県教育委員会 指導参考資料(教職員用)「誰もが自分らしく輝くために ～多様な性のあり方と人権～」

<https://www.pref.tottori.lg.jp/302318.htm>

○鳥取県「多様な性を理解し行動するための職員ハンドブック」

<https://www.pref.tottori.lg.jp/235803.htm>

教材 2 : 学校でこんなことないかな？

学校でこんなことないかな？

もし、こんな場面を見たら、あなたはどう思う？声をかけるとしたら、どんな声をかける？
「おい、こんな場面を見たら、あなたはどっか？声をかけるとしたら、どんな声をかける？」
 「おい、こんな場面を見たら、あなたはどっか？声をかけるとしたら、どんな声をかける？」
 「おい、こんな場面を見たら、あなたはどっか？声をかけるとしたら、どんな声をかける？」

送迎車の準備のために重い荷物を運ぶことになりました。ある男子が「一緒に運ぶと声をかけると、女の子は下手だからだめだ」と言っています。

送迎車の準備のために重い荷物を運ぶことになりました。ある男子が「女の子から持てばいい」と言っています。

「男だから」「女だから」と言われていやな気持ちになったことはある？
 どうしていやな気持ちになった？

自分も友達も得意なことややりたい気持ちを持っているはずだよ。「男だから」「女だから」といったことに関係なく、自分らしさを大切にしてお互いを認め合うことで、いいこととできるよ。

教材 P2

【テーマ】

周りの友達への思いやり

【ねらい】

- ・前テーマにおいて、自分のよさを発見したことを発展させ、周りの友達への思いやり、お互い認め合う気持ちを育む。
- ・性別を理由に分けたり決めつけたりしていることはないかを具体的に考え、お互いが尊重されることの大切さを学び、自身の行動につなげる。

【指導のポイント】

- ・自分のみならず周りの人も、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自分らしさを大切にして一人一人が尊重されなければならないことに気付かせる。
- ・それぞれの個性を活かしながら共に協力しあっていくことの大切さに気付かせる。

【参考】（進め方の例）

※授業展開における中核的な部分に絞って記載していますので、授業の導入場面等については、ねらいを踏まえた上で、児童の発達段階や実態に応じて工夫してください。

学習活動	指導上の留意点
<p>もし、こんな場面を見たら、あなたはどう思う？声をかけるとしたら、どんな声をかける？（サッカー、荷物の運搬）</p> <p>○サッカーが好きな女子の事例について考える。（話し合う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子だからサッカーが下手だと決めつけるのはどうか。 ・サッカーといえば男子を想像する？ <p>○荷物運びを任された男子の事例について考える。（話し合う。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子だから重い荷物を運ぶのは当たり前？ ・女子はみんな力が弱い？得意な人がすればいいのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーをしたかった女子の気持ちを考えさせる。 ・女子と一緒にサッカーをしたくないと思った男子の気持ちを考えさせる。 ・女子はなぜ男子に荷物運びを頼んだのか考えさせる。 ・頼まれた男子の気持ちを考えさせる。

<p>「男だから」「女だから」と言われていやな気持ちになったことはある？どうしていやな気持ちになった？</p>	
<p>○事例のように「男だから」「女だから」と言われたり、聞いたりしたことはないか話し合う。</p> <p>○それぞれの場面で、自分だったらどうするか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の場面だけでなく、具体的な体験があれば発表して話し合う。ロールプレイしてみる。 ・「女子は〇〇」「男子は〇〇」と性別でまとめて考えてしまっていないか、考えさせる。
<p>【振り返り】誰もがいやな思いをすることなく、自分らしさを発揮しながら生活できるようにするために、大切にしたいことはどんなことですか？</p>	
<p>○今日の話し合いを振り返りながら、今後大切にしていきたいことを考え、伝え合う。</p>	

教材3：テレビや広告をよく見てみると・・・

テレビや広告をよく見てみると・・・

● 次のような商品のCMを作るとしたら、女性と男性どちらを登場させる？

 ()
  ()
  ()
 手洗いの石鹸 車 食器洗剤

 ()
  ()
  ()
 シャンプー エレベーター ノートパソコン

● テレビでこんなシーンを見たことはある？ どう思った？


医師と患者のやり取り


先生と生徒の授業の様子


男性が仕事でパソコンを操作している様子

ただ人形紙をくれているテレビやインターネットの動画から、見ただけで性別を判断することは「決めつけること」を助けてしまっていないか？ 番組や広告を見てみると、いろいろなことに気づくかもしれない。

教材 P3

【テーマ】

固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）

【ねらい】

- ・身近なCMやTV番組の事例をもとに、固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスに気付かせる。加えて、そういったメディアの情報に影響されない、情報を読み解く力（メディアリテラシー）をつける。
- ・固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスに縛られないことで、お互いの個性が尊重され、一人一人が能力を発揮して生きていくことができることに気付く。

【指導のポイント】

- ・普段接している様々なメディアの情報の中には、固定的な性別役割分担意識に基づくものが含まれていることに気付かせる。
- ・アンコンシャス・バイアスは、このような情報や自らの体験の積み重ねにより自覚なく形成され、誰にでもありえるということ、アンコンシャス・バイアスに基づく言動は、自分の可能性を狭めたり、周りの人を傷つけることがあるため、日々の言動がアンコンシャス・バイアスによるものでないか意識するのが大切だということに気付かせる。

【参考】（進め方の例）

※授業展開における中核的な部分に絞って記載していますので、授業の導入場面等については、ねらいを踏まえた上で、児童の発達段階や実態に応じて工夫してください。

学習活動	指導上の留意点
次のような商品のCMを作るとしたら、女性と男性のどちらを登場させる？	
○商品ごとに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性」「男性」だけでなく、両方でもよい。 ・なぜそう思ったのか考えさせる。（話し合わせる。） ・「女性」「男性」どちらかに偏っているCMを放送すると、見る人にどんな印象を与えるか考えさせる。

テレビでこんなシーンを見たことはある？どう思った？	
○見たことがあるかどうか、どう感じたのか記入する。	・どう感じたのか、考えさせる。（話し合わせる。） ・「男なのに○○」「女なのに○○」と考えてしまっていないか気付かせる。
【振り返り】性別にかかわらず、誰もが自分らしさを発揮しながら生活できるようにするために、（様々な情報を受け取る時に）大切にしたいことはどんなことですか？	
○今日の話合いを振り返りながら、今後大切にしていきたいことを考え、伝え合う。	

○固定的な性別役割分担意識に対する考え

内閣府の行った調査によると、固定的な性別役割分担意識や性別に関する思い込みについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が多かった項目のうち、上位2項目（「女性には女性らしい感性があるものだ」「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」）については、50%前後という高い割合となっている。また、異性に対する思い込みだけではなく、男性・女性自身も無意識のうちに自身で（異性より）強く思い込んでいる項目もある。

固定的な性別役割分担意識に対する考え

（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計）
 男女両方で上位10位に入っている項目

男性 上位10項目	回答者数：5069	(%)	女性 上位10項目	回答者数：5165	(%)
1 女性には女性らしい感性があるものだ		51.6	1 女性には女性らしい感性があるものだ		47.7
2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		50.3	2 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		47.1
3 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		37.3	3 女性は感情的になりやすい		36.6
4 女性は感情的になりやすい		35.6	4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		30.7
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		31.8	5 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		23.8
6 男性は人前で泣くべきではない		31.0	6 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ		23.2
7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		30.3	7 家事・育児は女性がするべきだ		22.9
8 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		29.8	8 組織のリーダーは男性の方が向いている		22.4
9 家事・育児は女性がするべきだ		29.5	8 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		22.4
10 家を継ぐのは男性であるべきだ		26.0	10 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		22.1

（出典）「令和3年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査結果」（内閣府男女共同参画局）https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html

○アンコンシャス・バイアスのセルフチェック（例）

- ・「親が単身赴任中です。」と聞くと、父親と母親のどちらを思い浮かべますか？
 - ・「子どもは野球チームに入っています。」と聞くと、息子と娘のどちらを思い浮かべますか？
- どちらかを思い浮かべること自体に正解・不正解はないが、「単身赴任のような働き方をするのは普通男性だ。」「野球をするのは男の子だ。」と思い込んでいる場合、「母親が単身赴任なんてかわいそう」「女の子は野球はできない」という言動につながり、自分の可能性を狭めたり、人を傷つけてしまう可能性があることに注意が必要。

教材 4 : 家の中の仕事ってだれがする？

家の中の仕事ってだれがする？

● あなたの家では家の中の仕事をだれがしている？ 「している人」の欄に書いてみよう。

	仕事の内容	している人
料理	彩料の買い出し	
	料理を作る	
	料理の片付け	
	片付け	
洗濯	洗濯物を洗う	
	干す	
	取り込む・たたむ	
掃除	しまう	
	リビング	
	子ども部屋	
	風呂	
その他	トイレ	
	玄関	
	ゴミ捨て	
	ペットの世話	

● 自分もチャレンジできそうなもの（既にしている人は、新しくチャレンジできそうなもの）を書き出してみよう。

● チャレンジしてみた自分の感想や、家族や周りの人の反応や感想を書いてみよう。

👤 調査

～多量や発生する頻度（6歳未満の子も含む）ってどのくらい？～

👤 男性 1日あたり76分

👤 女性 1日あたり414分

※総務省「平成28年社会生活基本調査」

又によって、一週に何回か入る人や住み替える家は少ないなど、家族みんなが協力して家の仕事をすることは大変です。また、1日あたりのチャレンジに終わらず、続けてみることで、家の仕事の量がどのようになるのか試してみることができそうです。

教材 P4,5

【テーマ】

家庭での役割分担、自分のできること

【ねらい】

- ・ 性別役割分担意識にとらわれず、協力して家庭の仕事を行うことの大切さに気付かせる。
- ・ 自分の役割について考え、家事参画への意欲を育てる。

【指導のポイント】

- ・ 自分の家庭における役割分担を書き出すことにより、誰かに偏っていないか考えさせる。（ただし、子どもたちの家庭環境は様々であることについて十分配慮する。学校では扱わず、持ち帰って家庭でチェックしてみるよう促してもよい。）
- ・ 家族の一員としての自分の役割について考えさせ、「チャレンジしてみよう」「既に実行しているものについては）続けてみよう」という気持ちを育てる。

【参考】（進め方の例）

※授業展開における中核的な部分に絞って記載していますので、授業の導入場面等については、ねらいを踏まえた上で、児童の発達段階や実態に応じて工夫してください。

学習活動	指導上の留意点
<p>○表に記入する。</p>	<p>あなたの家では家の中の仕事をだれがしている？ 「している人」の欄に書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表に記入して可視化することで、自分の家庭における役割分担についてあらためて考えさせる。 ・ 1つの仕事をしている人が複数いる場合は、全員記入する。（いつもしている人、たまにしかしない人、など分かるように印をつける等、工夫してもよい。） ・ 空欄には、表にはないが自分が思いあたる家庭の仕事を記述させる。（家庭には多くの家事が存在することに気付かせるため、欄を追加したり、別の用紙を足したりしてもよい。）

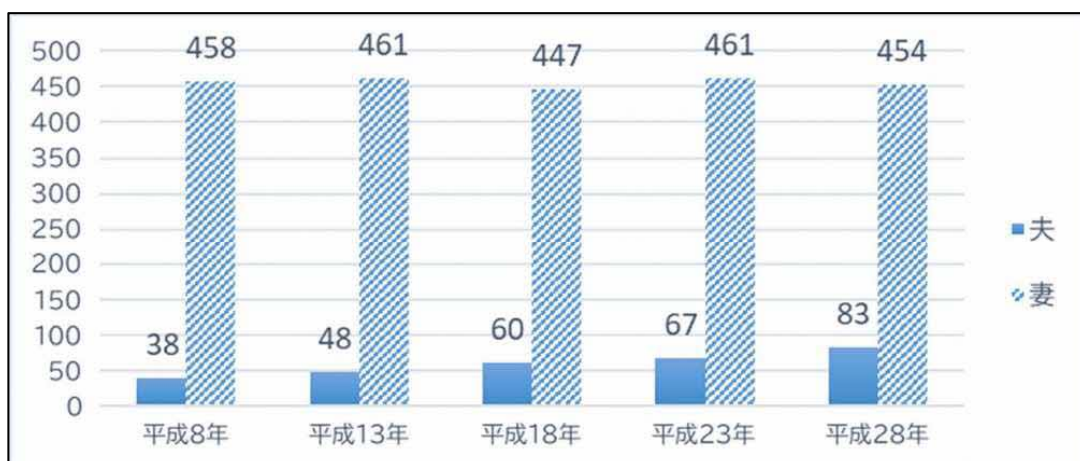
<p>自分もチャレンジできそうなもの（既に行っている人は、新しくチャレンジできそうなもの）を書き出してみよう。</p>	
<p>○自分ができそうなものを選んで記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前ページの表を見て、家族の一員として自分にできることを探す。 ・今までにしたことのある仕事や、してみた感想などを自由に発言させる。
<p>チャレンジしてみた自分の感想や、家族や周りの人の反応や感想を書いてみよう。</p>	
<p>○チャレンジ後記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習等で実践する。 ・家の方からのコメントがもらえる場合はチャレンジ後記入してもらう。
<p>【参考】家事や育児をする時間（6歳未満の子を持つ世帯）ってどのくらい？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・家事・育児に関わる時間は、男性より女性の方が圧倒的に多い理由を考えさせる。（話し合わせる。） ・「家事・育児は女性の仕事」とする性別役割分担意識が今でも残っており、影響していることを伝える。 	
<p>【振り返り】性別にかかわらず、誰もが自分の個性や能力を十分に発揮しながら生きていくために、大切だと考えることはどんなことですか？</p>	
<p>○今日の話し合いを振り返りながら、今後大切にしていきたいことを考え、伝え合う。</p>	

(参考) 6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事関連時間（全国）

家事関連時間は男性が増加傾向にあり、男女差は縮小しているものの、依然として大きいと言える。

「6歳未満の子どもを持つ世帯の家事関連時間の推移」（週全体、夫婦と子どもの世帯）

単位：分



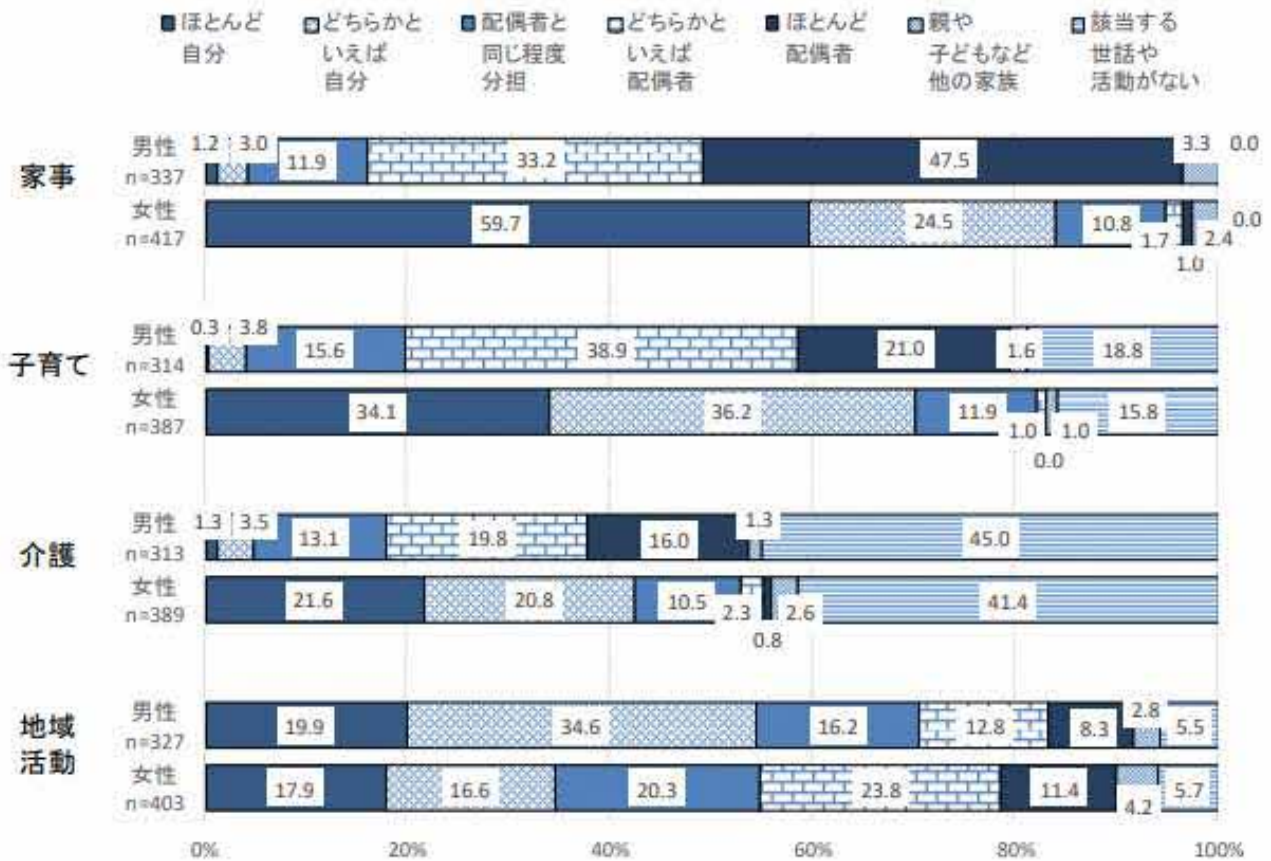
(出典) 平成28年社会生活基本調査 (総務省)

○家庭生活に関する意識について

鳥取県が実施した調査において、家庭での仕事を誰が担当しているかを聞いたところ、「地域活動（自治会、町内会、PTA活動など）」を除く各仕事において、女性は「ほとんど自分」か「どちらかといえば自分」、男性は「どちらかといえば配偶者」か「ほとんど配偶者」であると答えた割合が高く、家庭における仕事の大半は女性が担っている。

また、「配偶者と同じ程度分担」していると答えた割合は、「家事」「子育て」「介護」で男性の方が高く分担の認識について男女差が見られる。

家庭の仕事の分担状況（性別）

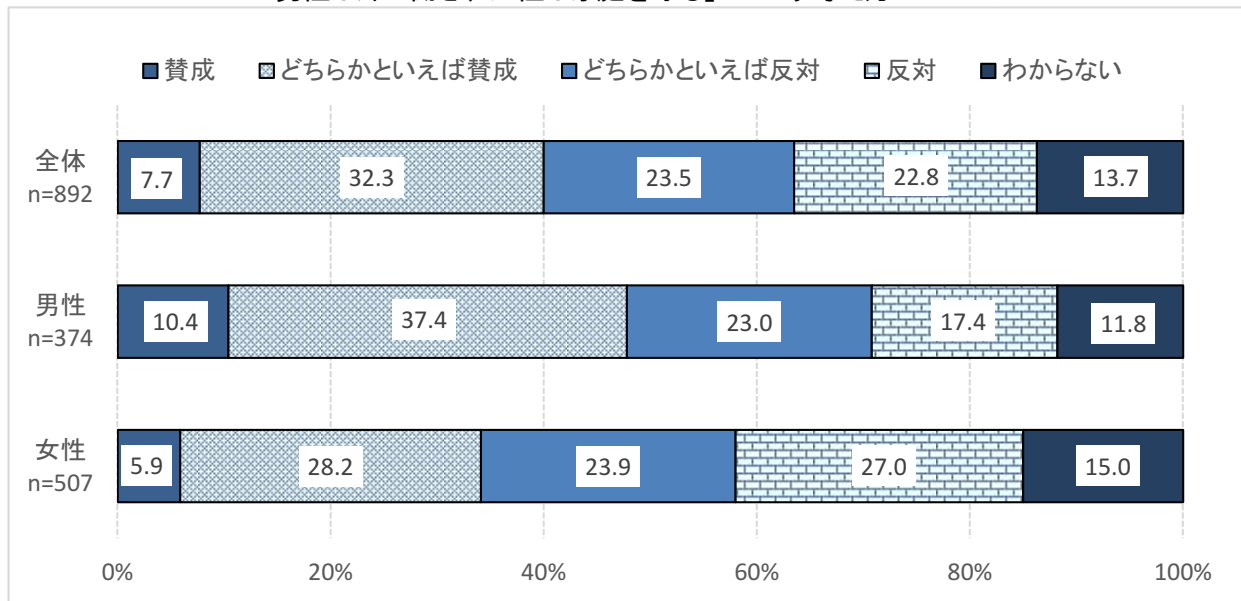


(出典) 令和元年度鳥取県男女共同参画意識調査

○性別によって男女の役割を決める考え方について

鳥取県が実施した調査によると、「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方について、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が、男性47.8%、女性34.1%、（全体40.0%）となっており、固定的な性別役割分担意識はまだ残っていると言える。

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方について



(出典) 令和元年度鳥取県男女共同参画意識調査

○家事の種類について

一言で家事と言っても、料理・掃除・洗濯…といった大きな分類から派生する細かな家事もたくさん存在する。

(例) 料理 (夕食)

- ①献立を考える → 食材の在庫を確認する
- ②買い物に行く → 買ったものをしまう、買い物袋を片付ける
- ③下ごしらえをする
- ④調理する
- ⑤盛り付ける
- ⑥食事を配膳する → 食事の前にテーブルを拭く
- ⑦片づける → 残り物を冷蔵庫に片づける、調味料をしまう、テーブルを拭く、シンク・コンロを片付ける、ふきんを洗って干す

※細かな家事について、鳥取県ホームページで公開している「とっとり家事シェア手帳」に掲載しています。



(参考) とっとり家事シェア手帳 <https://www.pref.tottori.lg.jp/298925.htm>

 **鳥取県 令和新時代創造本部 女性活躍推進課**

住所 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
電話 0857-26-7075 ファクシミリ 0857-26-8196
E-mail jyosei-katsuyaku@pref.tottori.lg.jp
令和4年3月発行



※この指導の手引きは、鳥取県ホームページからもダウンロードできます。
<https://www.pref.tottori.lg.jp/302601.htm>